

シナプス

第211号

明るく 優しく たくましく



学校法人 大東中央学園

大東中央
幼稚園

大東中央幼稚園園長室だより
平成26年4月7日発行

☆園長コラム ☆25年度教職員・園児構成
☆担任の保育日誌から ☆卒園児進路

見て欲しい人が見てくれない！?

園児たちは、3歳前後にそれぞれの自我が芽生えて、身の回りの事柄全てに、ぼくが私が……と、何でも自分自身の気持ちを前に出すようになってきます。結果、なかなか親の言う事を聞いてくれなくなるところから、この時期を**第一反抗期**と言われますが、**こんな時だからこそ子どもの言動から目を離すわけにはいきません。**

4月号の“私幼時報”に九州大学能楽研究院の佐藤剛史助教が『食への感心が無い子どもの育て方』として、子どもの食事を進まなくさせる10項目を提言しておられます。

【1. 食事時にテレビをつけている。】

子どもは脳が十分に発達していません。テレビに集中すれば、食べるのがとまります。そのうち、満腹中枢が刺激されてお腹いっぱいになって食べなくなります。～脳が十分に発達していない＝人生で1番発達する時期＝ので、食事とテレビの二つを同時に与えては、脳が混乱してしまい、食事どころか、脳の発達に悪影響を与えてしまいます。

【2. スナック菓子・チョコレート菓子・清涼飲料水を完食させる。】

【3. 子どもだけで食べている。】

子どもに取って親との会話はとっても楽しい時間です。食卓から、その親がいなくなれば、会話や笑顔が無くなれば、食事は単なる胃に食べ物を入れるだけの作業になります。～さみしい思いで食事する事ほど、子どもの心に空虚感を与えるものではありません。情緒の安定の為に・心の成長の為に親子一緒に食事は、とても大切です。

【4. (幼児期に) つかみ食べをさせる。】

【5. (反面論です) 子どもの好きなものだけをつくりましょう。おかずを多くつくりましょう。】

おかずが多すぎれば、ご飯やみそ汁は食べなくなり

ます。食べないからって、子どもの好きなものばかりつくるのは逆効果です。～お母さんの好きなものばかり造るのも偏食を生む一大要素です。

【6. 食事の時間が不規則。】

【7. 外遊びをさせない。】

【8. ゲームなど、食事よりもっと楽しいものが身の回りにある。】

【9. 食材や味にこだわらない。】

子どもの味覚は大人よりも鋭く、味に敏感です。みそ汁のみそを変えただけでも食べなくなったりします。そのこだわりをいい加減にすると、食べなくなります。～お母さんのこだわりが、子どもの精神力を強く逞しくします。

【10. 報酬や罰を与える。】

人間の三大欲の一つである“食欲”を満たす食事時間のお母さんの対応が・お母さんがどれだけ真剣に子どもに関わるかが、子どもの将来を決定づけると言っても過言ではありません。

3月16日付読売新聞朝刊の『日曜便』記事にも、スマートフォン(スマホ)の話題で『玩具店店員さんさんの投稿に「おもちゃを試しに試してみるコーナーで、以前は親子一緒に遊んでいたのに、この頃は、子どもが上手く積み木が出来ても、パズルが出来ても、子どもの嬉しい瞬間をスマホをしていて見逃すお母さんが多いのです。出来た、と得意げにママを見ても、ママは自分に無関心。喜びを分かち合う親がいるから子どもはやる気を持って頑張れるのに、お母さん、目を離して行けないのは、スマホでなくて、我が子ですよ。』とありました。

世の中のお母さんたち、子どもたちは**“今の今”の自分を見て欲しいんです。** ついでに言わせていただければ、園長も今、これからの“シナプス”を読んで欲しいんです。 辻本博人